

7月定例活動

講座「森の調査」



7月定例会は7月28日(土)に相生山緑地の植生調査を実施しました。

午前中は、樹高、枝張、幹周を計測

して樹木の成長度を計測するものです。定点観測を過去2回実施しており、今回も前回同様の計測を実施しました。

今回は会員の他、見学者の参加も得て和やかな雰囲気の中で調査を行いました。計測に先立って測定木の確認に手間取りましたが、何とか調査ができました。

調査結果の考察は別の機会に譲りますが、個人的感想としては、幹周については、成長の余裕がある場所にある木は太くなっているものの、他の木との間に余裕がない場合は、さほど顕著な成長がみられない感じました。また前回調査時に比べて消失した樹木が多かったこととカシナガの被害が多かったことが印象的です。特に、どんぐり祭りで例年ツリーハガーズさんが木登りに使う大振りなコナラが被害に

あったことがとても残念です。

午後からは、森全体で遊歩道沿いにカシナガの被害状況を調査しました。

この結果、カシナガの被害は集いの広場周辺に多く発生しており、必ずしも森全体に広がってはいないことが判りました。しかし十分な対策を講じなければ、今後もカシナガの被害は拡大していくのではないのでしょうか。

やぶ蚊に何箇所も刺されて痒い中で定例会でしたが、変化が見えにくい森のなかの環境変化を実際に観ることができて有意義な一日であったと思います。

最後になりましたが、東洋ソフランの担当者の方がこの日、助成事業の説明にわざわざ相生山に来てくださいました。この場を借りてお礼申し上げます。

(村田 英二)

「環境デーなごや2007 中央行事」 出展

9月23日(日)、「曇りから晴れ」の予報でしたが、出展準備で焼印ペンダント用の炭火を起こした途端にわか雨。栄地区のみの局地的な雨だったようで、20分ほどで止みホッとしたものかえって蒸し暑くなりました。

人々が来場し始めましたが、今年は飲食物の店が無くなったためか、訪れる人々の層が昨年までと異なり、祖父母と孫連れが少なく、大根でっぼうに目を輝かす男の子の姿が減りました。

しかし、今年はいじめて出品した森さん特製の竹玩具に人々が注目。刻み目

をつけた竹棒を別の竹棒でこすると先端のプロペラが回転するもので何とも不思議。大人も子どもも立ち止まって「何で?」。「数学者ベルヌーイの法則を利用したもの」云々の説明書を渡すと、理解はできないものの、面白くなって多くの人を買っていきました。

木の股で作ったゴムパチンコも並べました。年配の男性は「懐かしい」と手に取り、女性たちは玉用の青いセンダンの実に興味を示していました。

永遠の花形は焼印ペンダント作り。誰かがコナラの木を切っていると人々

が群がり、古いも若きも我も我もとやりたがり、大舘会長は玉の汗の大奮闘。しかし実演していないとさっさと通り過ぎていきます。群集心理の面白さを実感した一日でした。(伊藤 晶子)



天白生涯学習センター主催

トライアルサタデー 子どもチャレンジ竹細工

5月19日、6月16日、23日、7月7日(いずれも土曜日午前)全4回開催。

第1回は、子どもの参加者17名と森くらぶ会員、荒池クラブ会員及び学習センター職員3名で相生山緑地の竹林で会員の指導により竹細工に使う竹切りをしました。

2回目からは相生小学校の研修室に場所を移し、竹細工にチャレンジです。6月16日は手始めに大根鉄砲、紙鉄砲などを作りました。次に23日、7月7日はレベルを上げてうぐい

す笛、水鉄砲、竹とんぼの製作です。

子どもたちの中には初めはナイフ、ノコギリの取り扱いができない子もいましたが、回数を重ねることで何とか作品を作ることができました。

4回の講座を通じて、子どもたちに怪我もなく、無事終了できよかったです。一緒に指導のお手伝いをいただきました方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。(森 勝)

